授業科目 (ナンバリング)	**生物薬剤（事前学習）** **(N4F413)** **（実践的教育科目）**	担当教員	早川 正信*・室 高広*・大磯 茂*・神田 紘介*・大久保 伸哉*・末廣 真理恵*・中島 健輔*・出口 雄也・石原 知明（＊実務経験のある教員）

展開方法	講義・演習・実習	単位数	3 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い	アクティブラーニングの類型
本学薬学部薬学科のディプロマポリシーである、薬の専門家として高度化・複雑化する社会の医療ニーズに対応するために必要な知識、医療や薬学に関する諸問題について、有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる技能、薬の専門家として十分なコミュニケーション能力、個々の患者や医師・看護師等に薬の情報を的確に提供することができる能力を備えることを目標とする。 特に、卒業後、医療、健康保険事業に参画できるようになるために、病院実務実習・薬局実務実習に先立って、大学内で薬物投与計画、服薬指導、フィジカルアセスメントなどの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得することを目標とする。	①②④⑥⑦⑨

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力	薬剤服用歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。代表的な疾患の症例についての患者応対の内容を適切に記録できる。代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と身体所見・検査所見等を具体的に説明できる。使用上の説明が必要な製剤の取扱い方法を説明できる。	随時試験 （実技） （筆記） （確認テスト）	10% 20% 5%
情報収集、分析力	患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP 形式等で記録できる。代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的・方法と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。	随時試験 （実技） （確認テスト）	10% 5%
コミュニケーション力	患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤の取扱い方法を説明できる。	随時試験 （実技）	30%
協働・課題解決力	代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計支援ができる。代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す患者について、患者情報や身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）から得られた情報を活用し、適切な薬学的管理を行うことができる。	随時試験 （レポート） （発表）	5% 5%
多様性理解力	患者・利用者に配慮した適切な態度および行動ができる	健康観察記録・授業態度	10%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明
随時試験（実技試験、筆記試験）・小テスト・レポートの他、健康観察記録提出状況、授業態度で評価をする。

授 業 の 概 要
病院・薬局の勤務経験がある教員が、実務経験で得られた知見や事例等を取り入れ、実習を展開する。教科書、実習書を主体とし、これに参考書や配布資料等を補助的教材として用いて講義、実習を行う。講義、実習（模擬患者とのロールプレイおよび web 教材、シミュレーターを使った実習）、グループ討議（ＳＧＤ）を行う。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分です。

教 科 書 ・ 参 考 書
教科書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅲ チーム医療および地域の保健・医療・福祉への参画(東京化学同人) 治療薬マニュアル(医学書院) 参考書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤(東京化学同人) 指定図書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践(東京化学同人)

授業外における学修及び学生に期待すること
薬局・病院実務実習に先立って、大学内で薬学的管理、服薬指導、フィジカルアセスメントなどの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得するための事前学習のひとつの科目です。実務実習のことも想定して取り組んでください。講義と実習は連動しているので実習はもとより講義を欠席しないようにしてください。配布されたプリント及び参考書等を利用して予習・復習をしっかりするようにして下さい。講義中および講義後の質問は大いに歓迎します。※質問は、基本的に在室中は可能ですので、担当教員のオフィスを訪ねて下さい。 （薬学研究棟 P311：早川、P312：神田）

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習	到達目標番号*
1	プライマリケア及びセルフメディケーション	地域包括ケアシステムの中でのプライマリケア、セルフメディケーション重要性を討議する。代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(担当教員)	教科書･実習書･配布資料確認	1049, 1052
2	処方設計と薬物療法の実践と副作用モニタリング	個別の患者情報(遺伝的素因、年齢的素因、臓器機能など)および医薬品情報などの情報に基づいて薬物療法の最適化を討議する。過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物療法について討議する。(担当教員)	教科書･実習書･配布資料確認	755, 756, 757, 814
3	服薬指導、患者教育	吸入器具・眼軟膏・インスリン自己注射・坐薬・点鼻薬・点鼻薬等の使用方法を理解し説明。(担当教員)	教科書･実習書･配布資料確認	949
4	患者・来局者応対（薬局）	患者から薬物治療に係る基本的な情報（症状、既往歴、アレルギー歴、薬歴、副作用歴、生活状況等）を収集する。模擬患者（SP）との面談。収集した内容を適切に記録する。(担当教員)	教科書･実習書･配布資料確認	944, 946
5	服薬指導、患者教育（薬局）	医薬品を安全かつ有効に使用するための情報を種々のツールを用いて患者に提供する。模擬患者（SP）　との面談。(担当教員)	教科書･実習書･配布資料確認	947
6	患者・来局者応対（病院）	患者から薬物治療に係る基本的な情報（症状、既往歴、アレルギー歴、薬歴、副作用歴、生活状況等）を収集する。指導、教育内容を適切に記録する。模擬患者（SP）との面談。収集した内容を適切に記録する。(担当教員)	教科書･実習書･配布資料確認	944, 946
7	服薬指導、患者教育（病院）	医薬品を安全かつ有効に使用するための情報を種々のツールを用いて患者に提供する。模擬患者（SP）　との面談。指導、教育内容を適切に記録する。(担当教員)	教科書･実習書･配布資料確認	947
8	在宅医療	患者から薬物治療に係る基本的な情報（症状、既往歴、アレルギー歴、薬歴、副作用歴、生活状況等）を収集する。医薬品を安全かつ有効に使用するための情報を種々のツールを用いて患者に提供する。指導、教育内容を適切に記録する。模擬患者（SP）との面談。(担当教員)	教科書･実習書･配布資料確認	950, 951
9	患者状態の把握	Web 教材およびシミュレーターを利用したフィジカルアセスメント及び身体所見の観察・測定・評価。筋肉注射手技の理解およびシミュレーターを使用した実技。(担当教員・外部講師)	教科書･実習書･配布資料確認	988, 989
10	在宅医療の把握	在宅医療について把握し、地域での保健・医療・福祉について理解を深める。在宅医療・介護にかかわる薬剤師の管理業務について理解を深める。DX に伴う医療環境の変化の理解、オンライン服薬指導の実技。(担当教員)	教科書･実習書･配布資料確認	1039, 1040, 1041
11	プライマリケア及びセルフメディケーション	模擬来局者の状態の把握と評価を行い、ニーズにあった適切な対応を行う。代表的な生活習慣の改善についてのアドバイスを行う。模擬生活者・模擬来局者（SC）参加の医療面談（担当教員）	教科書･実習書･配布資料確認	1049, 1050, 1051, 1052
12	随時試験	筆記試験と実技試験		

注）上記の第１回～第 11 回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。
＊到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SBO 番号／項目対応表を参照して下さい。